

閉会のご挨拶



宮地 良樹 先生

京都大学 名誉教授／
静岡社会健康医学大学院大学 理事長・学長

本日は、尋常性痤瘡、酒皰をテーマに漢方のスペシャリストの先生方にご講演をいただきました。私自身は、尋常性痤瘡の標準治療薬であるアダパレン、アダパレンと過酸化ベンゾイルの配合外用薬や酒皰における標準治療薬であるメトロニダゾールの開発に携わってきましたので、各薬剤に対する思い入れがあります。しかし、それらの薬剤を駆使しても治療に難渋する尋常性痤瘡、酒皰の症例が多数あることも十分に承知しています。そのような症例に対して、漢方は重要なオプションの一つであることを各ご講演から学びました。

漢方は、本日ご参加の先生方のように非常に熱心に勉強され、ご診療に活かされている方とそうでない方とのギャップが激しい領域であり、そのギャップを埋めないと漢方薬は標準治療薬にはなりえません。漢方に対する思い入れやスペシャリストの先生方のご経験の蓄積に頼るだけでなく、臨床試験によって得られるエビデンスの蓄積が必要であると考えます。

そのためには、漢方薬の二重盲検比較試験が実施されることが期待されますし、そこから得られたエビデンスによって漢方薬が、皮膚疾患の標準治療薬として受け入れられることを期待いたします。